



# 沖縄高専だより

National Institute of Technology, Okinawa College



## 目次

1. 校長より	2	9. TACOスパ	12
2. 20周年記念事業	3	10. ロボコンの結果報告	13
3. 卒業生(本科5年生)へ贈る言葉	4	11. 学生の活躍(コンテスト)	14
4. 卒業生(本科5年生)へ贈る言葉	5	12. 専攻科及び九州大学連携教育プログラムの紹介	15
5. 卒業にあたって	6・7	13. 就職・進学活動を終えて	16・17
6. インターンシップに参加して	8・9	14. 2022年度就職・進学状況	18・19
7. 修了生(専攻科2年生)へ贈る言葉	10		
8. 修了(専攻科2年生)にあたって	11		



沖縄工業高等専門学校

さとう たかや  
校長 佐藤 貴哉

この度の卒業式、専攻科修了式、誠におめでとうございます。新しい世界に飛び立つ諸君が人々から信頼される技術者となり、技術とアイデアで社会に貢献し、幸せな人生を築かれることを祈っています。保護者の皆様をはじめ、沖縄高専産学連携協力会、後援会の皆様方には、平素より沖縄高専の教育、研究にご理解とご協力を頂き、深く感謝いたします。

2019年12月から始まった新型コロナのパンデミックが未だ続いており、我々は三年の長きに亘りCOVID-19との共存を強いられています。この間、人類はウイルスとの共存のためにも必要な情報科学技術の素晴らしい進歩を成し遂げました。あらゆるものがリモート化され、新しいコトを起こすときにはデータが重視されるようになりました。リモートワークが進み、日本人の仕事と家庭の両立に関する考え方も大きく変わりました。高専ではどの学校よりも速く、リモート授業のシステムを構築しました。学びを止めることなく、クラスターの発生をある程度コントロールできるようになりました。また、全国の高専生がパンデミックに対応できる新しい技術やアイデアを考案し、試作し、コンテストなどで披露し、実際に町や村で使ってみて、社会の役に立つことを実証しました。ウイルスの新しい検出法、ウイルスが不活化する表面塗料、避難所への物資配給のAIによるコントロール、密を回避するための誘導システムなど、数え上げたらきりがありません。パンデミックは、人々に大きな健康被害をもたらしましたが、その一方で、高専の学生、教員による社会実装研究を大きく進化させたとも言えるでしょう。2022年の沖縄高専は、コロナ禍の中、学生の活躍がとても際立った一年でした。各種コンテストでの優秀な成績獲得、特にガールズSDGs テクノロジーコンテストでの最優秀・文部科学大臣賞の受賞、バイオインフォマティクス技術者の最年少合格など枚挙に暇がないほどです。学生のアイデアと実行力、教員の指導が相まって、素晴らしい成果を生み出すことが出来ました。

沖縄高専は本年、2002年の創設以来、二十周年の記念の年を迎えます。2022年度に成し遂げられた成果は、正に創設以来積み上げてきた沖縄高専の教育研究が大きく花開いたものに他なりません。全学年、全学科で実施されてきたICT、IOT基礎教育、バイオインフォマティクス技術者教育、航空人材育成プログラムなど、沖縄高専オリジナルな教育研究の成果だと言えます。2023年度から、沖縄高専は次の十年を見据えて、新しい教育研究コース「観光・地域共生デザインコース」を設置します。この新コースではICTとデータサイエンスを駆使して、沖縄の産業界にイノベーションを起こす技術者を育成します。技術のみならず、沖縄の文化や企業経営なども重要視し、アントレプレナーシップを醸成するための教育手法も加えて、「エンジニアの新たな可能性」を学生と共に追及していきます。また、来年度より沖縄高専はアジアの玄関という地理的優位性を活かして、全国国立高専の国際展開・国際交流のトップランナーとして、国際展開拠点校の活動を開始します。沖縄から世界へ飛び出す学生と世界から沖縄を目指す学生の教育研究のサポートに今まで以上に力を入れて行きます。

沖縄高専で学んだ技術と人間力で、様々に変化する社会の中で強く生き抜ける人材育成を今後も教職員一丸となって推進する所存でありますので、保護者の皆様、地域の皆様方のご協力を宜しくお願い致します。結びに、旧年度にも増して関係各位に本校の教育・研究にご理解を頂き、更なるご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 沖縄工業高等専門学校 創立20周年記念について

沖縄工業高等専門学校は2002年10月に開学し、2004年4月には第1回入学式を挙げて本科第1期生が入学しました。前年2022年10月には開学から満20年が経過し、この度、「沖縄工業高等専門学校創立20周年」を迎えることになりました！

これまで沖縄高専は、4つの専門学科を中心として、産業界の基盤となる実践的技術者の育成に奮励してきました。開学から20年を経た現在、社会や人々の価値観は大きく変化しており、変化の激しい予測困難な時代となっています。この新しい時代に適応していくために、これから沖縄高専も「あるべき姿」を見つめ直し、変革していく必要があると考えています。

そこで沖縄高専は、この創立20周年の節目を機に、未来に向けて新たな価値を創造し、持続的に発展していく「沖縄の高専」としてさらなる飛躍を目指していきます！この新たなスタートとして、創立20周年記念事業を次のとおり企画・実施しているところです。

令和4年度は、創立20周年記念のプレ期間として位置づけ、これまで、創立20周年記念ロゴマーク・キャッチフレーズの公募・決定、本校学生による記念出前授業、本校学生による地域課題解決プロジェクトの食品・アプリ開発、本校卒業生による母校訪問進路相談会等を実施してきました。

そして令和5年度は、9月開催予定の創立20周年記念式典に向けて、引き続きこれらの企画を実施していくとともに、沖縄高専のブランディングも推進していく予定です。また令和5年度から新たに、「観光・地域共生デザインコース」も開設いたします。創立20周年を機に、新時代のパイオニア（先行者）となっていく「新しい沖縄高専」にご期待ください！

## ロゴマークのイラスト



## キャッチフレーズ



◀学生による  
記念出前授業の様子



◀本校卒業生の  
母校訪問様子



▲本校学生による地域課題解決プロジェクトの様子

# 卒業生(本科5年生)へ贈る言葉



機械システム工学科  
まきし たかし  
**眞喜志 隆**

機械システム工学科の皆さん、卒業おめでとうございませう。この5年間の沖縄高専での生活は、どのようなものであったでしょうか。友達はたくさんできましたか。機械工学は、学ばなければならない学問分野が多く、特に専門科目は勉強が大変だったと思います。ここで学修した内容がこれからの進路で直接に役立つことは少ないと思いますが、基礎はきちんと学べたと思います。これからの進路に向かって頑張ってください。

皆さんも経験したように、世界的なコロナ禍の状況で沖縄でも一時期は最も感染率の多い状況が続いたことがありました。現在は感染状況が減少しているとはいえ、今後も流行は続きます。この5年間のうち半分の期間がコロナで講義や行事に影響が出て、十分な学修や実験・実習ができなかったかもしれません。希望していた進路先を変更した人もいるでしょう。このようなことが今後は起きないことを望みますが、社会が変化しても適用していけるような心構えで進んでください。社会生活では、学校生活と大きく異なる点がたくさんあります。自分で考え判断し進んで行くことがより一層求められます。勉強することは学校の中だけでなく、いろいろな意味で一生涯続きます。このことを忘れずに未来に向かって進んで行って下さい。

卒業は一つの区切りです。これから新しい生活が始まる起点にもなります。これまでに比べ、今後社会はどんどん変化していきます。その中で技術者として活躍していくことを願っています。卒業おめでとうございませう。



情報通信システム工学科  
なかひら かつや  
**中平 勝也**

長かったようで短かった5年間の高専生活、皆さん十分に楽しめたでしょうか。ここで言う、楽しめたかは、Enjoyの部分もちろんそうですし、苦しかった場面も含めてその他いろいろな経験のことです。どのような経験をしたとしても、10代後半～20代前半に経験したこと、それに対する取り組みは、一生の思い出になりますし、これからの生きる糧になります。担任として、人生の少し先輩として、皆さんとはいろいろな話をしてきました。一緒にこの時期を過ごせて良かったです。ありがとうございました。

新社会人となる皆さんへ。これからの数年は、一生で一番楽しい時期かも知れません。先生や保護者など周りにうるさく指示されずに、全て自分の力で生活し、自分の好きな仕事をして、お金を稼いで、自分の好きな趣味に没頭できますよ!最高ですね!!もう一つ大事なことがあります。これからは、責任が発生します。いままでは、周りに与えられたことに反応し、活動したことが多かったはずですが、例えば、勉強、試験、イベントなどです。周りに与えられたことに、文句を言い反発し無視したこともあったはずですが、これらは、立場は逆転ですよ。自分が周りに何かを与えて、何かを創造して、つまり社会活動をする番です。この点は意識を大きく変えましょう。怖がることはないですよ。頑張ってくださいね。

大学進学となる皆さんへ。大学はあっという間に終わってしまうかも知れません。スタートダッシュで行きましょう!すぐに大学の卒業研究が始まります。高専での卒業研究が面白かった人はさらに研究を深め、いまいちだった人は次の研究には没頭していい成果を残してくださいね。あとは、工学以外の学問や地域活動やボランティアにも興味を持っている活動の幅を広げてください。社会人になる前のこの時期は本当に貴重です。忙しくてのんびりする暇もないくらい、たくさんのごことにチャレンジしてください。

最後に、これから新生活が始まり、もしかしたら困難と感じることもあるかも知れません。しかし、基本的には自分の良いところは、一生変わりません。無いものや変えられないものに執着せず、自分を完璧に信じて人生を楽しむしかありません。これからも皆さんを応援しています。では、また会いましょうね。



メディア情報工学科  
よなみね たかひろ  
**與那嶺 尚弘**

卒業おめでとうございます。入学した当時は卒業まで遠くに感じたと思いますが、もう目前です。あっという間に時間が過ぎたと感じる人、長かったと感じる人、特に5年生は忙しくて落ち着かなかったと感じる人、人それぞれに時間の経過の感じ方があると思います。みなさんは新型コロナウイルスの影響で、遠隔授業への対応や色々な行事が中止となり、新型コロナに翻弄された学生生活とも言えます。楽しい事ばかりではなかったと思いますが、しかし、みなさんが過ごしてきた高専での時間が、今後のみなさんの記憶に長く残って欲しいと願います。

高専は高等教育機関に分類され、みなさんは15歳で「学生」になりました。でも在学中は「学生」と「生徒」の違いを特に意識はしなかったのではないのでしょうか。しかし、就職先や進学先では「高専」出身ということをきつと強く意識すると思います。それは高専生が同世代の人口の約1%という希少な存在で、多くの高専卒の先輩方が活躍しているからです。そのため、配属部署や所属研究室でみなさんには大きな期待と注目があると思いますが、5年間の学生生活で成長したことを信じ、活躍して欲しいと期待しています。とは言っても、心身に無理して頑張れ!という意味ではありません。高専生活で学んだことや学生生活の経験を糧に、体調を整えつつ新たな環境に慣れるよう自分をコントロールしてください。スロースターターぐらいがちょうどよいと思います。

卒業式を終え、年度が変わるとみなさんは高専の本科生から新たな肩書となります。新たな環境への不安と期待が日に日に募ってきたのではないのでしょうか。みなさんの人生はみなさんのためにあります。伸び伸びと活躍してください。みなさんの活躍を信じ、応援しています。



生物資源工学科  
はぎの わたる  
**萩野 航**

生物資源工学科5年生担任の萩野です。私は生物資源工学科の3期生、みなさんは15期生ですから、年の差12年、干支が一回りですね。12年前、私も皆さんと同じ沖縄高専の5年生だったわけです。2011年3月、私は4階の自然化学実験室で、卒研のデータのまとめをしていました。買ったばかりのiPhone4でTwitterを開くと、信じられない津波の映像。あの東日本大震災があった3月11日を境に、世の中はずいぶん変化したと感じていましたが…、本当に世の中何が起こるかわかりません。皆さんが入学して2年が経った2020年、新型コロナウイルス感染症によって、何もかも変わりました。いきなり始まった遠隔授業、大変でしたね。教員も学生も手探りの状況で、皆さんには窮屈な思いをさせたと思います。出来ないことだらけの学校生活。研修旅行も行きたかったですね。楽しみにしていたのに、ごめんください。それでも今、こうして皆さんが卒業できるのは、皆さんが日々できることを、精一杯やってきたからですよ。

生物15期生のみんな、卒業おめでとう。心から、お祝い申し上げます。大きく成長した皆さんに比べて、私は成長できたのか、ただくだびれた30代になってないか、不安になります。みんな私よりしっかりしているし、とても頼もしく見えますよ。

さて、ひと休みしたら、将来のことを考えましょう。これから人生のステージが変わります。色々な場所に行ってください。多くの人と出会ってください。学ぶことはたくさんあります。お金を稼いで、自分で生きていかなばなりません。自分で選び、自分で決めて、自分の人生を生きて下さい。楽しいことも辛いこともたくさんやってきます。万が一、同じ職場で働くことになったらよろしく。世の中何が起こるかわかりませんから。



3期生と15期生で記念撮影  
(2023年2月17日、最後のクラスレクにて)

# 卒業(本科5年生)にあたって



機械システム工学科  
ぎま なみき  
儀間 南軌

このような場を与えられたことが初めてなので、いったい何を書いてよいのやら。

20年という人生の中で、4分の1を沖縄高専で過ごしたと考えると感慨深いです。

正直、高専に入学していい思い出よりも悪い思い出の方が多いので、「楽しい5年間だった!」とは口が裂けても言えません。高専に入学してよかったのかすら今の私にはわかりません。地元の進学校に進学した方がよかったのではないかと今でも思うことがあります。そんな私ですが、友人の支えもあり、無事に高専(本科)を卒業することができます。

少し自慢になるかもですが、自分は勉強で困ったことがあまりありません。席次も常に上位をキープしていたので、高専での勉強は別に苦ではありませんでした。しかし、私は勉強する意味を見出せず、どこからか来る謎の使命感で勉強をしていました。周囲からの評価と期待だけが高くなり、自分の意識との差に苦しみました。そのため、4年生になると勉強が作業になっていました。5年生になり、塾バイトを始め、自分の知識で金銭を得るという行為が自分にとって初めて勉強してきた意味を実感することができました。また、卒業研究という高専生活最大の課題でも1~4年生で学んできた数学や専門科目をフルで使うため、もう少し真面目に勉強しておけばよかったと後悔しました。私は、あと2年、専攻科生として高専に残るので、専攻科ではしっかりと勉強する意味を自分で考え、使いこなせるよう勉強に励んでいきたいと思えます。

ここまで、拙い文章に付き合ってくださいありがとうございます。そして、最後になりますが、ここまで育ててくれた両親、支えていただいた先生方そして高専でかかわったすべての人に感謝申し上げます。



機械システム工学科  
ぎま ゆうし  
儀間 勇士

5年間という時間は聞くだけでと長く感じるけど、実際に過ごすとおとという間に感じます。私は人見知りをする方で、入学してから最初は、友達ができずに不安な気持ちを抱いていました。しかし1年生の頃は、みんな寮に入るので自然と友達ができ、最初の不安が消えていました。寮生活を送ることによって、生活するうえで基本的な掃除や洗濯などのやり方を覚えることができました。勉強面では授業のペースが速く、留年するんじゃないかと不安だったのを覚えています。そんな時に助けてくれたのが友達の存在でした。わからない問題があったときに教えてくれたり、嫌なことがあったときに愚痴を言ったりして助け合って成長していくことができました。

高専に来てよかったなと感じたのは、いろんな人とかかわることができたことです。周りは自分と違った趣味や、価値観を持った人と話をするので、自分の知識や考え方、価値観の幅が広がったなと感じました。

ここでの生活はとても充実した5年間でした。就職先でもこの経験を生かして頑張りたいと思います。



情報通信システム工学科  
しまぶくろ かつき  
島袋 克輝

中学3年生のときに、たまたま存在を知り、センター試験受けなくていい!?理数が得意だ!という過信のもと、沖縄高専に入学してから5年が過ぎ、ついに3月に卒業を迎えます。まずは、怯えていた留年をすることなく、無事に卒業を迎えられたことにほっとしています。

この5年間は、コロナに振り回されました。遠隔授業でさぼろうと何度考えたか。そんな中でも、進んで勉強を続けることができたのは自分の強みになったように感じます。情報科では、ハードからソフトまで幅広い分野に手を付けることができ、自分が好きな分野を見つけることが出来ました。しかし、やはり、やり残したことが多く多い気がします。留学や資格取得などコロナのせいにながら自分の挑戦する意欲が足りなかった気がします。私は、大学へ編入し、やり残したことを学びに次のステップへと進みます。沖縄高専に入学し、なにかと楽しく高専生活を送ることができ、将来への自分の方向性を示すことができたことは、本当に良かったなと思えます。

最後に、ご指導頂いた教職員の方々、支えてくれた友人、家族に心より感謝を申し上げます。5年間の学びをこれからの生活に生かし経験を増やしていこうと思います。



情報通信システム工学科  
うらさき みゆう  
浦崎 美柚

長いようで短いような高専生活5年間が終わりを迎えます。今回、このメッセージを書くにあたって入学したての1年生の頃を思い返してみると、1年生の頃は同じ中学校の人が少なく、友人ができるか、高専は留年する人が多いと聞いていたので無事に卒業できるのか、寮での生活など様々な不安がありました。しかし、いざ学校生活をおくってみると、定期テストや毎週だされるレポートに追われながらも、高専でできた友人たちと放課後遊んだり、テスト期間中に一緒に勉強したりなど忙しくも楽しい学校生活を送ることができました。

私は最初、プログラミングを学びたいと思い高専に入学しましたが、情報通信システム工学科ではそれだけでなく、電子回路や組込みシステム、通信工学などソフトウェアとハードウェア両方を学ぶことができ、自身の視野を広げることができたと思います(たぶん...)。また、余談ではありますが、3年生の記憶はほとんどありません...(遠隔で)。

最後になりますが、支えてくれた友人や家族、手厚くサポートしていただいた先生方に感謝申し上げます。5年間、大変お世話になりました。高専に入学できて本当に良かったです。



メディア情報工学科  
たかざと かなえ  
**高里 奏絵**

楽しいことや大変なこと色々ありました。5年間の高専生活はとても充実していました。

これもひとえに、素晴らしい友人たちに巡り合えたおかげだと思えます。勉強を教えてください、時には叱ってください、面白いに出会えたことは一生の宝物です。

1年と2年は学校生活に慣れるのに必死でした。3年と4年は遠隔授業が増えましたが、対面授業が再開すると様々な人と接する機会が増え、友達がたくさんできました。

5年は卒業研究と就職活動がやはり大変でした。特に就職活動は、なんとなく行きたいと思っていた業界が就職活動を始めた時期にはもう既に応募を締め切っていたり、エントリーシートが書けなかったり、面接で緊張しすぎて頭が真っ白になったり大変でした。しかし、先生からエントリーシートの添削をしてもらったり、キャリア相談の方に面接の練習をしてもらったり、内定が決まった友達からアドバイスを貰ったり、進路が決まっていなかった友達と慰めあったり、周りの人に助けられながら自分の希望に沿った会社から内定を頂きました。4月からは中学生のころから夢だった実家住みの社会人になります。学生時代の反省を踏まえて立派な大人になりたいです。

周りの人に支えられて過ごした5年間でした。  
指導して下さった先生、素敵な友人、その他に感謝です。



メディア情報工学科  
あかみね りえい  
**赤嶺 理英**

入学当初は5年後というまだまだ先だと思っていたのですが、いざ卒業を前にすると5年という月日は本当にあっという間だったなと思います。

初めての寮生活では、洗濯や掃除など自分一人で行わないといけないことが多く、勉強を行いながらそれらをこなすのはとても大変でした。それだけでなく、入学当初はあまり仲のいい人も居なく寂しさを感じる時もありました。しかし、日にちが進むにつれ仲の良い友人もでき、彼らと夜まで過ごすことが出来る寮での生活が楽しく、時間を忘れるほど充実した生活を送ることが出来ました。

勉強面では、一般科目に加え専門分野の科目もあり、新しいことを知る嬉しさ、楽しさを感じつつも、年々レベルが上がっていくにつれ苦勞もありました。わからないところがあった時に、すぐに友人や教員に聞くことが出来る環境だったため、挫折することなく勉強することが出来ました。高専での学びをこれからの生活に生かして、もっともっと成長していこうと思います。

最後に、様々な場面で支えていただいた教職員の皆様、友人、家族に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。



生物資源工学科  
しんざと しゅれい  
**新里 守礼**

あっという間に、時間が過ぎ自分でも驚いています。私は、5年生での卒研を入学当初から楽しみでした！5年間で色々ありましたが、振り返ってみても5年生での1年間が一番充実して楽しかったです。テーマを決めて、プロトコルを組んでから実験までの流れを経験することができ、この5年間で学んだことを生かして1人1つのテーマを、先生から教わりながら研究ができるのは、高専ならではのものだと思います。

私は、3年生までどの分野に進むべきか、将来どうしようかなど悩んでいました。COVID-19の影響で遠隔授業になってしまったり、研修旅行がなくなったり残念な部分もありましたが、私はこの遠隔の1年間で、自分の興味のある研究分野を調べたり、逆にやりたくないことはなんなのかなど考える時間があり、今考えるとその時間も無駄ではなかったと感じます。

そして、大学院を目指して専攻科への進学を決めました。環境が変わらないということに不安を感じる方もいるかもしれませんが、慣れた環境であと2年間研究ができるのは、とても魅力的だと私は考えました。自分の選んだ選択枝が、正解だったと思えるように全力で頑張っていこうと思います。関わりのあった、先輩方、先生方、寮の皆さま、同級生や生物資源工学科のみんな、5年間ありがとうございました！先生方、研究室の皆さま、専攻科でもあと2年間よろしくお祈りします。



生物資源工学科  
わたなべ ゆうと  
**渡辺 優斗**

沖縄高専に入学した当時は、非常に長い学生生活になると思っていた5年という期間は終わってみるとあっという間のこのようです。しかしながら、今思い返してみると入学後1週間ほどでインフルエンザの流行による休講があったり、また新型コロナウイルス感染症の影響により、3年生のほぼすべての期間と4年生の大部分の期間がつぶれてしまったりと、感染症に振り回されることの多かった学生生活であったことが思い返されます。すべての期間を合わせると1年半にも及ぶ登校できなかった期間の中で、研修旅行やインターンシップ、高専祭などを行うことが出来なかったため東京での就職が決まり、引っ越しの為の荷造りをしている現在においても未だ卒業するという実感を持っていません。5年間を通して不測の事態が多かった私達の学生生活でしたが、この期間に多くの方々のお世話になりました。この感謝を忘れずに今後また不測の事態が起こった際に社会の役に立てるような人間になれるようにこれからの社会人生活で力をつけていきたいと考えています。

# インターンシップに参加して



機械システム工学科  
かねしろ ときと  
兼城 時斗

私は、国際ケーブル・シップ株式会社と株式会社阪技の2社で、インターンシップに参加しました。

まず国際ケーブル・シップ株式会社では、企業説明会と社員座談会があり、海底ケーブルの仕組みや実際に船に乗り、敷設作業を行っている社員から特別なお話を聞くことができました。また2日目には、ケーブルの保管をしている港へ見学を行い、2日間を通して、普段私たちが当たり前のように利用しているネットワークの裏側を知ることのできる貴重な経験となりました。

つづいて、株式会社阪技では、兵庫県高砂事業所の方々との5Days オンライン・インターンシップを行いました。同社は、原子力発電に利用されるタービンの設計などを行う企業で、企画・設計から生産・品質管理、システム開発までトータルソリューションサービスを実現している企業です。今回のインターンシップでは、5日間をかけてトータルソリューションの一連の流れを体験してきました。また社員座談会では、就職に関する小さな不安からアドバイスまで話す貴重な時間を過ごすことができました。

私の場合、2Days（現地）・5Days（オンライン）という形で参加でしたが、全く異なる業界を短期間で体験できたのは結果として、とても良かったと思います。私のように、まだ将来どういう業界で働きたいか、就職か進学か迷っている人は、短期・長期にかかわらず様々な企業のインターンシップや説明会に参加することをおすすめします。せっかくの長期休暇だとは思いますが、来年の自分への先行投資として積極的に行動していきましょう！



機械システム工学科  
さこだ ゆうた  
迫田 悠汰

私は9月上旬から9月中旬に、航空機の整備を行う2社のインターンシップに参加しました。1社は羽田空港の整備地区にある株式会社 JAL エンジニアリング（JALEC）、もう1社は、e.TEAM ANA の整備実習を羽田空港近くの ANA Blue Base という訓練センターで行いました。私がこの2社のインターンシップに参加した理由は、航空機に興味があって航空技術者プログラムを履修しており、将来、航空整備士の職に就きたいと考えているからです。JALEC では、5日間の実習を行い、初日の格納庫見学から始まり、整備の基本実習や航空機の安全についてのグループディスカッションを行いました。e.TEAM ANA では、3日間の実習を行い、実際に使用していたエンジンを訓練用にしたものを使用しての実習や座席の設置体験などを行いました。

私はこの2社のインターンシップを通して、航空機整備とは常に安全について考え、1つでも抜けがあると重大な事故に繋がりがかねないので、責任感も伴う仕事であるが、整備作業の完遂時には達成感が得られる仕事だと改めて感じることができました。航空整備士になるには、英語力と仲間とのコミュニケーション能力、機械関係の知識が必要だと思うので、高専で学ぶことが重要になると思います。このインターンシップで学んだことを常に意識しながら学校生活を送りたいと思います。



情報通信システム工学科  
うへはら さら  
上原 彩來

私は、整備の様子を実際に見て航空機の整備業務について理解を深めるために、e.TEAM ANA と JALEC のインターンシップに参加させていただきました。

e.TEAM ANA は ANA が保有する航空機の点検や整備を行っている整備部門7社の総称、JALEC は JAL が保有する航空機の点検や整備を行っている会社です。私はそこで、座学や実習、座談会などを通して航空機整備について学びました。e.TEAM ANA では6日間のうち前半はオンライン形式、後半は対面形式でのインターンシップとなりました。オンライン形式では、航空機整備や各会社の業務内容などについて学びました。対面形式では、ツールチェックや各部品を取り外しなどの整備基礎の実習、LTC・BTC・ETC・CTC の会社見学などが行われました。JALEC では、5日間にわたり航空機整備の概要とその実習、実際に整備を行っている格納庫の見学などが行われました。

このインターンシップを通して、座学で機体整備について知り、見学や実習でどのように機体整備が行われているかを学ぶことができました。同時に、航空機の安全等を守るために整備士は強い責任感と高い自信を持って整備作業を行っていることを知ることが出来ました。今回のインターンシップで学んだことを今後の就職活動へ活かしていきたいです。



情報通信システム工学科  
たかえ すよしと  
高江洲 義人

私は九州大学工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラムコースのインターンシップに参加し、融合基礎工学科のプロセス設計工学の分野に携わりました。私がお世話になった研究室では、主に次世代ワイドギャップ材料の研究開発を行っています。

インターンシップでは、座学を行いました。初日は概要説明を受けた後、化合物半導体に関する基礎知識を学びました。2日目から5日目にかけては、主に半導体の気相成長プロセスについて学びました。この中には材料力学の話題も含まれており、初めは難しく感じましたが、日を追うごとに内容が理解できるようになってきました。

今回のインターンシップは座学だったということもあり、高専の授業時とあまり変わりませんでした。しかし、授業内容が高専よりも実践的であり、開発された技術が社会でどのように活用されているのか、何のために開発されたのかななどを背景に学ぶことができたため、とても楽しく学ぶことができました。

このインターンシップを通して、私は新しい技術やプロセスに対する知識を深め、半導体に関する最新の研究動向や技術動向について学ぶことができました。大学のインターンシップだと専門的な知識が必要になってくるため、インターンシップの前までに軽く復習しておいた方が安心できると思います。



メディア情報工学科  
まえじょう りりか  
**前門 利歌**

私は夏休みの4日間、琉球放送株式会社（RBC）のインターンシップに参加させていただきました。RBCは、ラジオ・テレビの放送、イベント事業などを行っている会社です。

今回のインターンシップでは、技術局の方々の日頃の仕事内容や、テレビやラジオの電波が放送局から各家庭に届けられる流れなどの説明を受けた後、実際に働いている現場を見学させていただきました。生放送の番組を見学できたので、番組放送中や放送前の現場の様子や、トラブルが発生した時の対応を見ることができ、責任と緊張感のある仕事だと思いました。また、多くの方が1つの番組を作るのに関わっており、そこに関わる一人一人がプロフェッショナルなのだと感じることができたことで、働くことに対する意識が変わりました。様々な場所を見学したり、機材を触らせていただいたり普段できない貴重な体験ができ、とても濃い4日間になりました。

これからインターンシップに参加する学生には、何事も早めを考えて準備して欲しいです。自分の興味のある業界はなんなのか、その業界にはどんな企業があるのか、早めを考えて調べることで、余裕をもって準備することができると思います。また、インターンシップ中で実際にそこで働く方々の声を聞くことができるので、積極的に質問して大人のひとたくさん話すことも大事だと思います。



メディア情報工学科  
たかはし こうた  
**高橋 航太**

私はエスアイエス・テクノサービス株式会社様のインターンシップに参加させていただきました。同社はサーバの設置、保守管理など、インフラ関連の業務を行っている会社です。

メディア情報工学科では、3年次の講義でルータを用いた実験をする機会があり、私は自分で環境を構築して自分で設定を行う楽しさに魅入られ、その経験を基に同社へのインターンを希望しました。

感染症の影響で、今回のインターンシップはオンライン開催へと変更になったため、自宅から参加しました。内容は、5日間で簡単なネットワークを作成するという課題と、先輩社員や社長との対談会、参加学生同士でのグループワークと、かなり豊富なものでした。個人的に印象深かったのが、「会社にとって何が大切か」というタイトルの元、お客様、社員のスキルなど、いくつかの与えられた要素を順位付けせよというグループワークです。参加者それぞれの意見を聞いて、自分とは別の視点を得るのがとてもいい経験になったと感じています。

おそらく、これを読んでいる皆さんもこれからインターンに参加することになると思います。私が感じたのは、準備期間があるようではないということです。インターン先の選定は4年生に進級してすぐ始まります。進級する前のある程度行きたい業界を絞っておくと、心に余裕をもって挑めるはずですよ。



生物資源工学科  
あさのみさき  
**浅野 光咲**

私は夏期休暇中の5日間、富士フィルム株式会社で行われるインターンシップに参加させていただきました。コロナウイルス感染拡大防止の観点からWEBを利用した非対面型での実施となった本インターンシップでしたが、高専OB・OG座談会や研究員とのヒアリング、実際の商品のデータ解析結果から見えてくる課題の解決など、非常に盛りだくさんなプログラムを経験させて頂きました。

そんな密度の濃い5日間の中でも特に印象深かったのが、2日目から最終日にかけて行われた、SDGsに対する解決策を考えるグループワークです。富士フィルムさんの「コア技術」をもってSDGsの問題を解決するにはどうしたらよいか、他高専の学生と活発に意見を交わしながら解決策を導き出しました。WEB開催だったからこそ、グループメンバー全員の表情を逐次確認しながら、各々が専門としている分野の知識を存分に活かして議論を深めることができ、非常に充実した時間を過ごせました。

インターンシップを通じて他高専の学生と関わりが持てたことで、沖縄高専に通う今の自分の強みはなんなのか、反対に何が足りていないのか、将来に向けて自分自身を見つめ直す機会を得ることが出来ました。さらに「企業で働く」ということについてより鮮明で明確なイメージを持つことができ、今取り組んでいる研究内容が実社会にどう役立てられるのか、社会人としての意識も養えました。

「学生」という立場で企業訪問させていただけるのが、インターンシップの大きな魅力だと思います。これからインターンシップに参加する学生の皆さんには、武器となる自分の強みをしっかりと持って、たくさんの経験と出会いを得てきてほしいです！



生物資源工学科  
きたじま まの  
**北島 万納**

「やってみなはれ!」というサントリーグループの企業理念に惹かれ、夏休みの5日間夏季インターンシップに参加させていただきました。

今回インターンシップに参加していた県外高専の方々の中には、私と同じように「やってみなはれ!」という企業理念に惹かれて応募した人が多く、固定観念にとらわれることなく豊かな発想を生み出している人が多かったように感じます。1つの研究に打ち込んでいる人も多く、これまで夢中になれることがなかった私にとっては貴重な経験で、多くの刺激を受けました。また、今回のインターンシップに参加したことで、私の中の「働く」というイメージも大きく変化しました。インターンシップ参加前は、働くということに対して堅いイメージがあり不安が先行していましたが、今回サントリーグループさんで「自分がつくったお酒が何年後かに賞を取るかもしれないという期待もあって、お酒造りが楽しい」と目を輝かせながら話す社員の方をみると堅いイメージはなくなり、働くことに対して期待も生まれました。今回サントリーグループさんのインターンシップで得た経験を生かして、これからは「やってみなはれ!」の精神で自身の壁をつくることなく限界を突破していきたいと考えています。

今回私が参加したサントリーグループさんのインターンシップでは、それぞれの発想をまとめ、グループで検討したことを含めて発表する機会が多く設けられていました。これまで私は、皆の前で自身の考えを簡潔にわかりやすく発表することに対して苦手意識がありました。インターンシップ参加前は発表に対してとても不安でしたが、インターンシップで発表する機会を頂き体験することで、発表に対する苦手意識が薄れ、インターンシップを通して確実に成長できたように感じています。

これからインターンシップを体験する後輩の方々へ、自身の苦手分野を克服できるような企業さんのインターンシップに参加してみることもお勧めします！

# 修了生(専攻科2年生)へ贈る言葉



機械システム工学コース  
まきし たかし  
眞喜志 隆

専攻科機械システム工学コースの皆さん、卒業おめでとうございます。沖縄高専で過ごした7年間はどのようなものだったでしょうか。本科5年次から続くコロナ禍の影響で、十分に学修や実験・実習が行えなかったかもしれません。進路変更を余儀なくされた人もいるかと思います。これからの進路も決して安定なものではないかもしれません。この7年間で学んだことは決して無駄にはなりません。社会に出る人は、学校生活とは全く違う環境や状況の中で進んで行くこととなります。新しい学校へ進む人は、より高度で緻密な研究活動を行うことになり、その後で社会へ進むこととなります。どのような世界へ進むとしても、新しいことを吸収し新しい社会を作っていく技術者として進んで行って下さい。皆さんのさらなる飛躍に期待します。卒業おめでとうございます。



電子通信システム工学コース  
たにふじ しょういち  
谷藤 正一

専攻科修了生の皆さん、おめでとうございます。高専生活の7年間、皆さんにとって長かったですか？それとも、あっという間でしたか？当初は4人居た同級生が、進路変更や休学により、修了したのは半分になってしまいました。また、コロナ禍の影響も受けたり、それが徐々に以前までの生活に戻ってきたり、取り巻く環境が目ぐるしく変化し、対応するのも大変だった学年ではなかったのかと思います。授業においても、対面と遠隔のそれぞれの形態を体験しました。双方を体験して、それぞれを客観的に比較することができたので、メリットばかりでなく情報通信における課題も明確に感じられたのではないのでしょうか。その気付いた課題を、これから始まる社会人生活の中で、今度は世の中の人たちのために改善・貢献してもらえたらと思います。そのためにも学び続けることが大切です。継続的な自己研鑽が自らを成長させ、スキルの幅を広げることにも繋がります。努力を惜しまずに、少しずつでも常に自分自身をアップデートしてください。高専の生活で培った能力を信じ、前に向かって進んで行きましょう！皆さんの更なる飛躍に期待します。 . . . . .



情報工学コース  
いは やすし  
伊波 靖

専攻科情報工学コースの皆さん、専攻科修了おめでとうございます。学科教員を代表して皆さんの門出を心から祝福したいと思います。皆さんは、これまでの人生のほぼ3分の1を沖縄高専で過ごしてきました。その7年間は、本当に様々なことがあったと思います。特にコロナ禍で過ごした日々は、これからの人生に大きく影響を与えることだろうと思います。しかし、皆さんは、そのような逆境の中でもしっかりと学び、深く研究し、大きな成果を達成することができたと思います。この経験は、今後の人生に大きな武器となるのだと確信しています。4月からの新しいステージでは、色々な苦難が待ち構えており、憂鬱になることもあると思います。そんな皆さんに、毎年贈っている私の好きなD・H・ローレンスの言葉を送ります。「将来のことを考えていると憂鬱になったので、そんなことはやめてマーマレードを作ることにした。オレンジを刻んだり、床を磨いたりするうちに、気分が明るくなっていくのには全くびっくりする」人生とは気の持ちようで、いくらでも素敵なものにできると思います。今後も皆さんの活躍を心から信じてお祝いの言葉としたいと思います。



生物資源工学コース  
たまき やすとも  
玉城 康智

生物資源工学コースの皆様、専攻科修了おめでとうございます。学科教員を代表し皆様の門出を心からご祝福いたします。皆様は専攻科で過ごした2年間、新型コロナの影響が続いた学生であり、入学式から修了式までのイベント、就職・進学活動、特別研究など常に制限が伴いました。私自身、これまで経験したことのない出来事が続いている状況です。しかし、特別研究をはじめ講義については対面授業となり、少しずつ日常を取り戻しつつありました。このような状況でも、皆様が「高い自主性」を発揮し、目の前の課題に一生懸命取り組んだ結果、専攻科を修了し「学士」を取得することになりました。皆様にとって専攻科の修了は、ひとつの通過点であり、新型コロナも皆様の人生ではひとつの出来事になると思います。この困難に立ち向かい学位を取得したことを自信に今後の人生を歩んで下さい。これからの皆様のご活躍を楽しみにしています。

# 修了(専攻科2年生)にあたって



機械システム工学コース  
たいら しげあき  
**平良 繁幸**

沖縄高専に入学して7年が経過しました。「ガンブラが好きなら高専がいいんじゃない?」という親の一言をきっかけに軽い気持ちで沖縄高専への入学を決めた私としては、こうして7年もの月日をここで過ごすことになるとは想像すらしておらず、感慨深いものがあります。

本科での高専生活では、入学当初は混合学級ということもあり中学校生活の延長のような気持ちで過ごしていましたが、学年が進むごとに専門科目は相応に難しくなり、4年生では就職・進学活動、5年生では卒業研究に取り組むことになるため、年度ごとに様々な困難にぶつかった気がします。その度に周りの友人達や教職員の方々に助けてもらったおかげで、無事卒業することができました。

専攻科には大学院大学への進学を考えて入学しましたが、希望する大学院に高専推薦の枠があったためあっさりとして進学が決まり、早い段階から研究等に割ける時間ができたため、本科に比べると余裕のある2年間だったと思います。在学生の中で進学を考えている方は、希望する進学先に高専推薦の制度があるか調べてみるのもいいかもしれません。

最後になりますが、私の高専生活は人に恵まれた7年間でした。たくさん助けてもらった友人達、ご指導いただいた教職員の皆様、支えてくれた家族、沖縄高専に関わるすべての方々々に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



電子通信システム工学コース  
まえだ たくや  
**前田 拓哉**

入学前沖縄高専に来た際に、とても大きく感じていた校舎、寮まで伸びるブリッジにワクワクさせていたのを覚えています。沖縄高専に入学したころ5年間は長すぎると感じていましたが、気づけば7年間もお世話になっていました。時間が経つのが速いと感じると同時に、様々なことを経験させていただきました。

専攻科に進学すると電子情報工学コースの同期は4人でしたが、最終的には2人となりました。本科に比べると人数が少なく大分教室が静かになってしまい、選択科目によっては一人で授業を受ける教科もあったりと、少々寂しい思いもしましたが、先生方にじっくり質問できる等デメリットだけでもなかったかなと感じています。卒業後の進路については、長期インターンシップに行かせていただき、内定をいただくことが出来ました。インターンシップでは、社会人として働くイメージや、考え方について学ぶことが出来たと同時に、自分に足りない能力もはっきり自覚できた良いインターンシップとなりました。

4月から就職しますが、就職先でも高専で学んだ知識をもとに、頑張っていきたいと思います。時には厳しく、時には親身になって指導してくださった先生方、ともに支えあってきた友人、ここまで育ててくれた両親に深く感謝を申し上げます。今までありがとうございました。



情報工学コース  
こむろ りお  
**小室 凜央**

15歳で沖縄高専に入学してから、7年の月日が経ちました。入学当時は専攻科へ進学することすら考えてもいなかったため、高専で7年も過ごすことになるとは思いませんでした。周りに知っている人が1人もいない中で始まった新しい学校生活に緊張していましたが、面白い同級生や優しい先輩方に恵まれ、毎日を楽しむことができるようになりました。

本科では、ICT委員会に所属して、Androidアプリを開発し発表をする大会やビジネスプランコンテストに参加しました。学校での勉強とは別に自分で開発のための勉強をするのはとても大変でしたが、顧問の先生や先輩方に助けてもらい、賞を受賞することもできました。

専攻科に入学し、同級生は4名となり本科の時と比べると賑やかさには欠けますが、お互い切磋琢磨しながら授業の課題や研究に取り組んでいました。研究や課題の締め切りに追われながらも、毎日楽しく過ごすことができたのは同級生たちのおかげです。研究では福祉の分野に関わり、自分の専門分野以外への見識を広げることもでき、研究の楽しさを知ることができました。

専攻科修了後は、就職して社会人として新たな環境での生活が始まります。不安もありますが、自分がこれまで学んだ知識や技術を活かすことができる場所で働くことがとても楽しみです。

私が沖縄高専で7年間充実した日々を送れたのは、学校生活を支えてくれた両親、日々楽しく一緒に過ごしてくれた友人、授業や研究で指導して下さった教職員の皆様のおかげです。心から感謝しています。本当にありがとうございました。



生物資源工学コース  
つだりゅうじ  
**津田 隆志**

私は2016年に千葉県の中学校を卒業して、沖縄にやってきました。当時、これからの生活に期待を寄せていたことを覚えています。沖縄高専では多くの経験を積むことができました。その中でも級長として5年間、責務を全うしたことは大きな成果につながったと感じています。高専では個性豊かな人が集まり、その集団の意見をまとめることは一筋縄ではいきません。しかし級友たちは大いに協力してくれました。特に研究報告会は、新型コロナウイルス感染症の影響で例年とは異なる形の開催となり、多くの先生方と学生の協力がなければ運営できなかったでしょう。

私の高専生活を総括して言うことがあるとすれば、「一生懸命に取り組めば、周りの人が助けてくれる」ということです。昔から繰り返されてきた言葉ですが、社会情勢によって人間同士の関りが変化した今だからこそ、思い返す必要があると考えています。後輩の皆さんも自ら行動して周囲を引っ張るような学生になってください。

結びに、卒業研究を始め多くの活動を支援して下さった平良先生、講義などでお世話になりました諸先生方に厚く御礼申し上げます。また学生生活をともに過ごして下さった学友の皆さん、沖縄まで送り出してくれた両親に感謝申し上げます。

沖縄高専創立 20 周年事業

# 「Tacoスパプロジェクト」

2023年に沖縄高専は創立20周年を迎えます。その記念事業の一つとして、地域貢献プロジェクトの一環で本校の専攻科1年生が開発した食品「タコライス×スパゲッティ 沖縄Tacoスパ!!」のテスト販売が決定しました。



「Tacoスパ!!」は、本校と名護子ども食堂及び東京学芸大学の共同開発した食品でビール醸造時の副産物である麦芽粕、乾燥酵母を使用し、もちもちの麺は大変美味しく評価も高いものとなっています。なお、本プロジェクトの売り上げは、名護子ども食堂が行う子どもたちへの支援に充てられます。プロジェクトの詳細はタコスパサイトへ記載していますので、ぜひご覧ください。

今回の販売は、市場調査を兼ねてのプレ販売となっており、今後全国展開も視野に入れています。12月と1月のテスト販売では、それぞれ用意した100食と300食を完売する事ができ、今後もテスト販売が決定しました。是非ご賞味ください。

○ Taco スパホームページ : <https://www.gonago.info/about-3>



# ロボコンの結果報告

10月30日（日）に熊本県において、アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2022九州地区大会（通称、ロボコン）が行開催されました。今年度の競技課題は、ロボットで飛行機を飛ばし指定場所に降して得点を競う大変難易度の高い内容となっており、3年ぶりの現地開催となりました。本校からは下記の2チームが出場し、両チームとも受賞することができました！

## 【Aチーム】

ロボット名：美ら海軍

出場選手：みやざと しょうご 宮里 彰吾（情報通信システム工学科3年）、  
あらかき みなみ 新垣 美海（機械システム工学科2年）、  
こうもと しゅう 甲本 志結（機械システム工学科2年）

受賞名：特別賞（東京エレクトロン賞）



Aチームロボ

## 【Bチーム】

ロボット名：うちなーちゃんぷるー

出場選手：なかむら ひでなり 中村 英誠（機械システム工学科4年）、  
みやざと たかと 宮里 鷹翔（機械システム工学科4年）、  
おばま なりと 小湊 就（情報通信システム工学科4年）、

受賞名：デザイン賞



Bチームロボ

Aチームのロボットは、相手の紙飛行機を打ち落とす機構が特徴となっていたのですが、本番ではトラブルもあり、思うように動作させることができず、残念ながら予選敗退となりました。しかし、事前の計量オーバーのトラブルにも臨機応変に対応したことが評価され、「特別賞：東京エレクトロン賞」を受賞することができました。

Bチームのロボットは、操縦者の腕の動きをトレースして手づかみで紙飛行機を飛ばすものとなっており、本番では紙飛行機をうまくつかみ、放つことができましたが、得点にならず予選敗退となりました。しかし、ロボットの操作方法や動き、愛嬌あるシーサーのデザインが観客を沸かせたこともあり、「デザイン賞」を受賞することができました。またBチームのロボットは、「全国の皆さまにもぜひ見てもらいたい！」との運営側の要望から、エキシビジョンで全国大会に出場し、会場を大いに盛り上げてくれました。

今後ともロボット製作委員会の応援をよろしくお願いたします。



## 学生の活躍 [コンテスト]

2023年1月15日(日)に全国の国公立の高専を対象とした「高専 GIRLS SDGs × Technology Contest (高専 GCON2022)」の本選が日経ホール(東京都千代田区大手町)で開催され、全国90チームの中で、本校の女子学生チーム「パイナップル🍍」が見事、文部科学大臣賞(最優秀賞)を受賞しました。

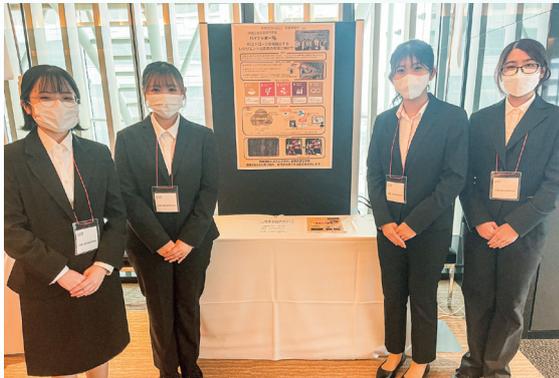
チーム「パイナップル🍍」は、生物資源工学科と情報通信システム工学科の学生からなり、異なる専門分野の強みを活かした社会実装とSDGsに取り組んでいます。具体的には、沖縄県農業研究センター名護支所や大学と連携し、農業技術とデジタル技術を統合する農業のDXに取り組んでいます。最終的には、パインアップルの生育情報をドローンとAIで取得して見える化し、収穫量や収穫日を予測可能にするデジタル圃場を構築する事で気候変動にレジリエント(強靱)な農業を実現します。これにより、従来の3K労働(キツイ・汚い・危険)のイメージを新3K(効率的・強靱・稼げる)に一新する事を目指しています。

今後ともチーム「パイナップル🍍」の応援を宜しくお願い致します。



### 発表題目

AIとドローンを基盤とするレジリエントな農業の実現に向けて



#### メンバー

うえふじ あやの さとう ひめみ  
上藤 綾乃、佐藤 緋美

(情報通信システム工学科5年)

うえはら さら  
上原 彩来 (情報通信システム工学科4年)

いとう さわ  
伊藤 砂羽 (情報通信システム工学科3年)

いしがき かお  
石垣 花緒 (情報通信システム工学科2年)

ちねん このは  
知念 紅葉 (生物資源工学科2年)



# 専攻科及び九州大学の連携教育プログラムの紹介

専攻科長 たから ひでひこ **高良 秀彦**

今年の4月より、専攻科と九州大学が連携する「九大工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラム」が始まります。この「九大工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラム」は、九州沖縄地区9つの高等専門学校の各専攻科と九州大学工学部「融合基礎工学科」にて修学する履修プログラムコースです。本プログラム修学では、履修者は高専専攻科と九州大学の双方に在籍することになります。

コースの特徴は従来のメジャーとなる専門教育に加え、関連性の高いIoT・AIの情報応用教育を修得します。またグローバル社会への情報発信力と実践的応用力を培うため、国際研究発表や産学連携研究プロジェクトへの参加の機会を設けます。この国際研究力と実践力を高めるため、専攻科1年次（大学3年次）から高等専門学校および九州大学の研究者間で連携する研究室への配属が予定され、双方の指導の下において研究力を強化していきます。

本プログラムへの出願資格は、「連携工業高等専門学校（沖縄高専）の専攻科入学者選抜（推薦選抜）試験合格者」と「連携教育プログラムへの入学確約ができる者」となっています。また、本プログラム受験を希望する学生には、4年次において九州大学の夏季インターンシップまたは研究室訪問を実施することが求められています。

入学後は、1年目の専攻科1年次（大学3年次）は沖縄高専が活動拠点で、2年目の専攻科2年次（大学4年次）は九州大学が活動拠点となります。合格者には在学期間中に修学支援経費が受けられる予定であり、居住地から遠方の場合は学生寮（九大筑紫キャンパス）に入居できる予定です。

プログラム所定の課程を修了した者は、高専専攻科から修了証書ならびに九州大学からの卒業証書（学士の学位記）が交付されます。さらに希望者へは大学院総合理工学府への優先的入学の機会が与えられる予定です。

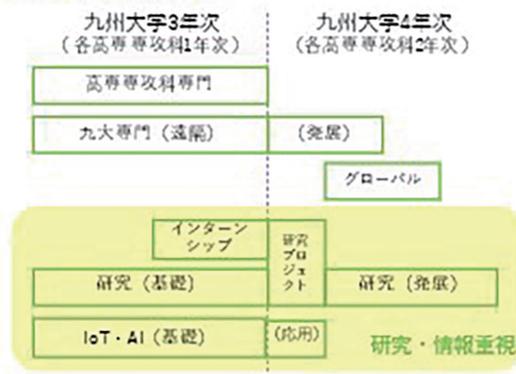
本プログラムの詳細については下記ホームページをご覧ください。

九大工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラムホームページ

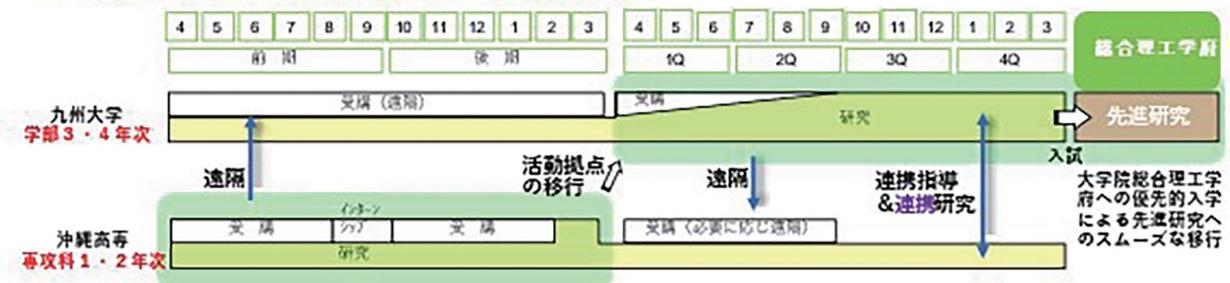
<https://renkei.kyu-kosen-ac.jp>



## ■ 履修科目概要



## ■ 履修生の修学・研究等に関する活動概要



# 就職・進学活動を終えて[本科5年生]



機械システム工学科  
まえかわ かずや  
**前川 和哉**

私は学力試験で大学への三年次編入が決まりました。進路を進学に決めたのは3年後期で過去問などを確認しながらいろいろ考え、最終的に受験する大学を決めて勉強を始めたのは4年の10月からでした。自分ではしっかり勉強をして挑んだつもりだったのですが、足りないと思うことが多かったです。勉強期間は大体9ヶ月くらいだったのですが4年の最初から始めてもっとレベルの高い場所を狙えばよかったと思っています。

ここからは試験勉強をどうやってやるかの自分の反省点も踏まえてのアドバイスです。何をやるべきかわからない場合はとりあえず興味のある大学の過去問を見ることをお勧めします。基本的なこと(レベルの高い大学になると出題範囲が一気に広がります。)はyoutubeの動画などで大体は学べるはずなどで早めに終わらして、あとは過去問などやれば良いと思います。

進学活動が終わっても、やるべき事はレポートや卒業研究などやる事は山積みです。特に卒業研究は余裕があると思っていてもいつの間にか焦る羽目になっています。周りが進んでいなくても感わされずにしましょう。進学活動だけではなくほかのことも計画的に頑張ってください。



情報通信システム工学科  
やまぐち さや  
**山口 沙弥**

私は4年生の終盤に進学ではなく就職することを決め、5年生の夏頃に無事、就職活動を終えました。

就職をすることに決めたのはかなり遅かったのですが、4年の夏休み頃から積極的にオンラインで開かれる企業説明会などのイベントに参加するようにしていた為、自分が一番就職したいと思った企業へのエントリー受付に間に合いました。企業によってはエントリー受付の期限が春休み中もしくはそれ以前に終わってしまう場合もあるので、少しでも気になった企業の公式HPや配布資料などはしっかりと確認し、情報収集をしていると安心してエントリーの準備ができると思います。

また、本格的にエントリーすると決めた時、エントリーシートの書き方や面接で気を付けることなど何もわからずかなり不安になっていました。その際、すぐに先生や友達、家族に相談すると、面接練習やエントリーシートの添削などたくさん助けてもらえて、適性検査や面接に落ち着いて挑むことができました。何もわからない時は一人で悩み過ぎないで、正直に周りの人に不安を話すことがとても大切だと思います。

進路活動中の方々は、一人で悩みを抱え込まずに周りの人たくさん相談しながら、本番で全力が出せるよう頑張ってください!



メディア情報工学科  
たまき じゅんや  
**玉城 洵弥**

私は来年度から岐阜大学に編入します。合格発表が6月だったのでそれまでの私の進路軌道と気を付けておくべきことを示したいと思います。4年生のちょうど期末テストが終わった頃、私は進学にするか就職するか決め兼ねていました。というのも、具体的にこの大学に行きたいという大学を見つけていなく、冬休み期間中は基本情報技術者試験の勉強をするだけで大学の編入の勉強はしていませんでした。また、就職活動も学校が主催した説明会に参加し、サイトに登録しただけでした。

そんなこんなで、4月になり新年度が始まったわけですが、5年生になって初めて知ったことですが、学校で技科大の編入のための推薦を取るためには25%以上の席次が必要な場合がほとんどなのですが、私はそれを知らなかったため技科大の推薦志願を出すことができませんでした。なので、4月下旬では過去5年で先輩方が進学した大学をまとめてどの大学がいいのか、受験日などを調べつつ就職説明会でご縁のあったアマゾンジャパンの就職面接を同時に行いました。その結果、岐阜大学の試験日の後、琉球大学の試験があり、日付が被っていないことから岐阜大学を受験し受かりました。アマゾンジャパンは落ちてしまいましたが、面接の勉強にもなったため受けてよかったと思っています。

最後に、私からのアドバイスとしてなんとなく進学したいと考えている人は大学について早めに調べておくことが重要です。



生物資源工学科  
とうやま てんち  
**當山 天地**

私は、来年度から東北大学理学部生物学科に編入する予定です。ここでは、私の進路決定の経験から学んだことをいくつか書こうと思います。

大学編入において進路を決定するまでには、編入先の大学を選ぶことと、試験で合格することの2つの大きなステップがあります。私がこれらのステップを通過するなかで一番大切だったと思うことが「情報収集」です。まず大学選びにおいて、自分がやりたいことに合う大学・学科はどこのかを探すために、多くの大学・学科についてより詳細で正確な情報を集めた方が良いと思います。そうすることで、試験勉強のモチベーション維持や、自分の興味と大学とのミスマッチの防止ができ、高専卒業後の学びがより良いものになるのではないかと思います。そして、編入したい大学の試験に合格するためにもやはり、試験内容や対策方法について詳細で正確な情報を集めることが必須です。

沖縄高専は開学から約20年が経ち、多くの先輩方が様々な進路を切り拓いてきました。インターネットの情報も重要ですが、このような先輩方や先生方にも話を聞いて情報を収集することで皆さんの進路決定に必ず良い影響をもたらすことができると思います。困ったときは遠慮せずに先輩方や先生方を頼ってください。

私のわずかな経験からの教訓ですが、皆さんの進路決定の支えになれば幸いです。

# 就職進学活動を終えて[専攻科2年生]



令和三年  
沖縄工業高等専門  
入学式

機械システム工学コース  
たわだ けんと  
多和田 賢人

高専に入学するとき「5年は長いな」なんて言っていたのに気づけば7年経っていました。もともと、電力関連に関わりたくて工業系の学校に進学する予定だった中学の私は沖縄高専機械科に入学しました。在学中は課題やレポートに追われたり、休日に友達と遊びに行ったり、寮生活に慣れたと思ったら某感染症で一年以上も実家で遠隔授業を受けることになったり、振り返ればなんだか楽しい学校生活を送ってきました。無事志望していた電力会社に内定もいただくことができ、今春卒業します。ここで私が就職活動を通して感じたことを書いておきます。これから進学就職活動を行う皆さんの助けになればと思います。

- 1、進学するにしても就職するにしてもやりたいことを決めて行動するのが一番の近道です。やりたいことがあるのなら、自ずとすべきことがわかるはず。特にないのなら、仕事条件や学校に寄せられた求人などからいろいろな業界を見てみる事をお勧めします。あまり興味がなくても業界研究を通して魅力を発見することができるかも...
- 2、とりあえず行動すること。思っていたよりも余裕はないかもしれません。「気づいたときには期限が過ぎていた」なんて最悪の事態もあり得ます。卒業見込み証明などの各種書類の発行にも時間が必要です。寝る前にスマホで少し確認してみてください。
- 3、使えるものは使しましょう。学校推薦や求人、教員のつながりなど就職進学問わず有利に進むことができるかもしれません。また、沖縄高専のアドバイザーの方もサポートしてくれますので利用しましょう。最後に教員の方々、共にすごした学友たちをはじめ沖縄高専に関わる様々な人々の助けをもらいながら楽しく過ごせたことに感謝します。



電子通信システム工学コース  
ふくはら けんし  
福原 兼司

私が過ごした7年間の高専生活で、一番苦労したことが就職活動だったと思います。私は通信業界の会社へ就職が決まりましたが、決定するまでは様々なことがありました。まず、就職活動を始めにあたって、希望する分野を決めました。私は光通信に関する研究を行っていることもあり、通信業界で働きたいと思うようになりました。そこから様々な企業を調べ、気になる企業のオンラインの説明会などに参加しました。しかし、最初に受けた企業は残念ながら落ちてしまいました。落ちた理由は圧倒的な面接の練習不足だったと思います。私はそこから、先生やOBの先輩に助けていただきながら面接練習を積み重ね、2つ目に受けた企業では無事内定をいただくことができました。

就職活動を終えて、私が一番大事だと思ったことは事前準備です。とにかく練習することで、しゃべることが苦手な私でも面接では自分をアピールできたと思います。そして、沖縄高専ではその練習を含め、就職活動を支えてくださる友達や先生方、先輩方がたくさんいらっしゃいました。本当にありがとうございました。



情報工学コース  
しやりょう かずき  
社領 一樹

7年間在籍した沖縄高専に替わる次の所属先が、去年の3月に決まりました。就活を始めたのは一昨年の9月頃。所謂「就活解禁日」というものが3月1日とされていますが、それに比べれば開始はだいぶ早かったということになります。実は就活を2回経験しており、専攻科進学を決心する直前までは本科卒として職を探していました。当時は、プログラマではなくデザイナーやイラストレーターとしてエントリーしていましたが、軒並み今後の活躍を祈られてしまいました。今振り返れば、好きではあるけれどさしてできるわけではないものを武器にしていたのは向こう見ずだったと思います。この件から得た教訓は、「できることを仕事にしたほうがいい」ということです。そういった経緯で就活から専攻科進学に切り替えましたが、このリカバリが利いたのは、早期に就活を進めていたということと、赤点を取らない程度に学業に励んでいたことに尽きます。「選択肢の幅があるうちに行動したほうがいい」ということを実感しました。

さて、以上2つの教訓を就活で得たわけですが、高専生活7年間でより多くの学びを得ました。それは、多くの場において多くの人と関わったからだと言えます。最近、人の縁や経験の伏線回収を意識するタイミングがしばしばありまして、顧みれば苦甘に富んだ実のある高専生活だったなと思うばかりです。沖縄高専で出会ったすべての方々に、深く感謝申し上げます。



生物資源工学コース  
ふじした がく  
藤下 楽

私は、総合化学メーカーに内定をいただき、来年度から就職します。

今年度の就職活動は、新型コロナウイルスの影響で従来と異なるスケジュールとなりました。そのような状況でも、私は早い時期から目標の企業を定めて就職活動を始め、余裕をもって就職試験を進めることができ、希望の会社に就職できました。

現在は「with コロナ」の方針により社会を取り巻く環境も変化しつつあり、これからの進学、就職活動に不安を感じている方も多いと思います。しかし、この状況は皆同じです。社会の変化に余裕をもって対応する為にも、早い時期から就職活動に取り組みましょう。また、過去の面接内容などが記録されている「就活・進学活動報告書」や、企業にいた経験がある先生方にお話を聞けることは高専生の大きな強みです。これらを活用すれば、希望の進路に進めるかと思えます。

まだ進路が定まっていない学生は、先生や先輩に相談したり、説明会に参加したりと、将来に向けてできる事はたくさんあります。まずは行動してみることで、何かしらの気づきを得られるかと思えます。新5年生は、これから就職活動や卒業研究が始まり、これまでの高専生活で最も忙しい一年になりますが、今ある時間を大切に悔いのないよう頑張ってください。

# ■就職・進学・志願状況

## 【令和5年3月卒業予定者の進路状況】

令和5年3月1日現在

区分	学科				合計
	機械システム工学科	情報通信システム工学科	メディア情報工学科	生物資源工学科	
卒業予定者数※2	29	41	42	39	151
進学希望者数	16	19	14	20	69
進学内定率 (合格者数/進学希望者数)	55.2%	46.3%	33.3%	51.3%	45.7%
進学予定先※1	沖縄工業高等専門学校専攻科(5) 愛知教育大学 長岡技術科学大学 東京工業大学 島根大学 福島大学 北見工業大学	沖縄工業高等専門学校専攻科(9) 長岡技術科学大学(2) 豊橋技術科学大学 東京農工大学 佐賀大学 武蔵野美術大学 沖縄中央学園	沖縄工業高等専門学校専攻科(5) 岐阜大学 豊橋技術科学大学 大阪芸術大学 代々木アニメーション学院金沢校	沖縄工業高等専門学校専攻科(8) 長岡技術科学大学(3) 神戸大学 広島大学 琉球大学 弘前大学 東北大学 愛媛大学	
就職希望者数	13	22	28	19	82
内定率 (内定者数/就職希望者数)	44.8%	53.7%	66.7%	48.7%	54.3%
内定先企業名 (県内) 県内に本社のある企業	MRO Japan 株式会社 株式会社沖電システム		沖縄ケーブルネットワーク株式会社 OTNet 株式会社	拓南商事株式会社	
内定先企業名※1 (県外) 県外に本社がある企業	株式会社IHI エスキューブ キヤノンメディカルシステムズ株式会社 アマゾンジャパン合同会社 I-PEX 株式会社(2) SUS 株式会社 出光興産株式会社(2) 株式会社ダイハツビジネスサポートセンター ヤマザキビスケット株式会社	株式会社マイスターエンジニアリング エスアイエス・テクノサービス株式会社 パナソニックコネクスト株式会社(2) NTT データソフィア株式会社(2) 富士電機株式会社 NTT コミュニケーショングループ 凸版印刷株式会社 デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム株式会社 株式会社ウィズ・ワン ジョンソンコントロールズ株式会社 さくらインターネット株式会社 三菱地所コミュニティ株式会社 フラー株式会社 株式会社日産オートモティブテクノロジー I-PEX 株式会社 株式会社メンバーズ	株式会社ヴィッツ 株式会社ザイマックス エスアイエス・テクノサービス株式会社 株式会社くふうカンパニー(2) 株式会社ローソンエンタテインメント 株式会社福岡銀行 AMEC コンサルタンツ株式会社 NEC フィールディング株式会社 デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム株式会社 西日本電信電話株式会社 ローランド株式会社 株式会社ディレクターズ パナソニック コネクスト株式会社 アイ・ケイ・ケイホールディングス株式会社 株式会社 FIXER (4) サイバートラスト株式会社 INTLOOP 株式会社(2)	サントリー知多蒸留所株式会社 KMバイオロジクス株式会社(2) 株式会社資生堂(2) 旭化成株式会社 東レ株式会社 サントリーホールディングス株式会社 日本ジェネリック株式会社 東海シープロ株式会社 関電プラント株式会社 三洋化成工業株式会社 YUIME 株式会社 株式会社オーエスデザイン 株式会社エンパイオエンジニアリング	

※1 同一企業に複数名の学生が内定した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を( )内に示しています。

※2 卒業予定者数には留学生を含む。

## 【令和5年3月修了予定者の進路状況】

令和5年3月1日現在

区分	コース				合計	
	機械システム工学コース	電子通信システム工学コース	情報工学コース	生物資源工学コース		
修了予定者数	6	2	4	10	22	
進学希望者数	2	0	1	3	6	
進学希望者率	33.3%	0.0%	25.0%	30.0%	27.3%	
合格状況	進学予定先※	奈良先端科学技術大学院大学 東北大学大学院		北陸先端科学技術大学院大学 長岡技術科学大学大学院 東京大学大学院 筑波大学大学院		
	就職希望者数	4	2	3	7	16
内定状況	内定率 (内定者数/就職希望者数)	66.7%	100.0%	75.0%	70.0%	72.7%
	内定先企業名 (県内) 県内に本社のある企業	沖縄プラント工業株式会社	沖縄セルラー電話株式会社		株式会社りゅうせき	
	内定先企業名 (県外) 県外に本社がある企業	東京電力ホールディングス株式会社 関西電力株式会社 富士電機株式会社	ソフトバンク株式会社	NTT データソフィア株式会社 東京計装株式会社 KDDI 株式会社	旭化成株式会社 ハイモ株式会社 中外製薬工業株式会社 株式会社ちとせ研究所	

※1 同一企業に複数名の学生が内定した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を（ ）内に示しています。



2023年〜新コースが始まります〜

**エンジニアの新たな可能性**

**沖縄高専**

**観光・地域共生デザインコース**

身につけた  
専門知識への  
**+α**

旺盛な  
チャレンジ精神の  
付与

(問合せ先)

沖縄工業高等専門学校 総務課総務係

TEL : 0980-55-4003 Mail : ssoumu@okinawa-ct.ac.jp